

《第14回演奏会》「バッハとルター」に寄せて／三澤 洋史

～ 宗教改革500年を記念して～

誰でも口ずさめるメロディーの賛美歌を歌いながら、自国の言葉で会衆全員が礼拝に参加していくことは、現代では、カトリックを含む全世界のキリスト教会で当たり前のことになっている。しかし、これを最初に成し遂げたのはマルティン・ルターである。ルターの業績はふたつの点に集約される。コラールの編纂と、聖書のドイツ語訳及び自国語礼拝の扉を開いたこと。

そのルターの宗教改革から約200年後、ルターの精神を深く受け止め、その創作活動の中心に据えて、稀有なる芸術的高みに昇華させた天才がいる。ヨハン・セバスチャン・バッ

ハその人である。彼の作った200曲にも及ぶカンタータは、ルター派信仰の樹にたわわになった見事な果実である。

今年は、ルターが、ヴィッテンベルクの教会に“95ヶ条の提題”を打ち付けて、宗教改革が始まった1517年から、ちょうど500年経つ。各地で記念行事が行われているが、当団ではルター自身の作曲によるコラールをもとにしたバッハのカンタータを3曲演奏する。

これらの作品には、どれも天才が天才と出会った瞬間の火花を感じる。ふたりに共通する熱い信仰への想いが、作品から奔流のように溢れ出て来るのだ。



指揮者／三澤 洋史

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。2001年より現在まで新国立劇場合唱団指揮者。1999年から2003年までの5年間、「パイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。2011年、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座合唱団の音楽作りを研修。

バッハに深く傾倒し、2006年、自らのバッハ演奏のホームグラウンドとして東京バロック・スコラーズを立ち上げた。ここを根拠として「21世紀のバッハ」をめざして多角的な活動を行っている。CDモテット集は、雑誌「レコード芸術」で準特選に選ばれ、話題を呼んだ。著書に「オペラ座のお仕事」（早川書房）がある。



ソプラノ／岩本 麻里



アルト／吉成 文乃



テノール／藤井 雄介



バス／大森 いちえい



合唱：東京バロック・スコラーズ

管弦楽：東京バロック・スコラーズ・アンサンブル

三澤洋史のもとで「21世紀のバッハ」を追求しようという志を共有する合唱団と管弦楽団。合唱団はオーディションによって選ばれたアマチュア、アンサンブルは一流のプロ奏者からなる。

演奏のみならず、公開レッスンや講演会など多角的な活動を行っている。また、バッハを愛好する個人や団体とのネットワークを広げ、バッハ探求のセンターとなることを目指している。

「団員募集 — バッハを一緒に歌いませんか？」



東京バロック・スコラーズでは、毎回演奏会終了後に、一緒にバッハを楽しむ、ステージを作り上げていく仲間を募集しています。次の入団オーディション予定日については、決まり次第ホームページのオーディションページに掲載いたします。

演奏会会場

川口総合文化センター・
リアメインホール

〒332-0015 埼玉県川口市川口 3-1-1

JR 京浜東北線 川口駅 西口正面

◎ 電車でお越しのお客様

- 東京駅から JR 京浜東北線で約 27 分
- 新宿駅から JR 埼京線～赤羽駅乗り換え～
JR 京浜東北線でひと駅 約 17 分
- 大宮駅から JR 京浜東北線で約 20 分

◎ お車でお越しのお客様

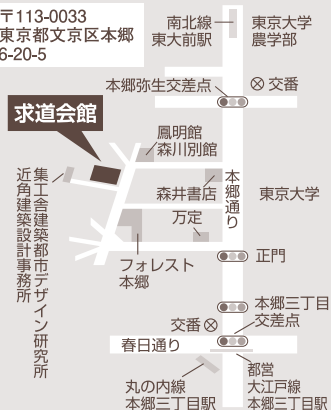
- 駐車場をご利用いただけます。
- 収容台数：155 台
- 利用料金：30 分 / 200 円



講演会会場

求道会館

〒113-0033
東京都文京区本郷
6-20-5



東京メトロ南北線「東大前」より徒歩 5 分
都営大江戸線「本郷三丁目」より徒歩 15 分
東京メトロ丸の内線「本郷三丁目」より徒歩 15 分